

日韓交流史講座Ⅳ

山東半島の近代 (2014年7月27日)

山東半島とは



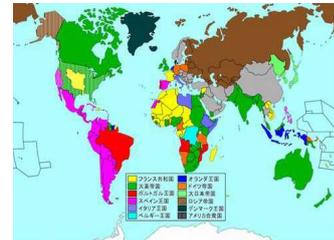
- 雨量少ない(温暖冬季小雨気候)
- 安定した自然(黄河流域と異なる)
低い山塊(山を越えて交流可能)
- 交通の要衝
- 早くから独自の文化が栄える
竜山文化(城外遺跡)
齊(臨淄)、魯(曲阜)
都の後背地
- 日本、朝鮮半島から最も近い。
山東半島—朝鮮半島—日本
磨崖仏(千仏山)、瑞山磨崖仏
王興寺、飛鳥寺
道教文化(地主神、アマテラス?)
最澄、円仁、張宝庫、倭寇

近代を見る視点

- 世界史と山東半島
- 中国史と山東半島
- 日本史と山東半島

世界史と山東半島(1)

- 帝国主義の時代(1870年以降)
資本主義の発展
資源供給地、輸出市場の必要(植民地)
⇒ 植民地獲得競争(文明的優越)



世界史と山東半島(2)



- 日清戦争の衝撃
- 1895 三国干渉
- 1896 ドイツ(膠州湾:初の租借地)
- ロシア(大連、旅順)
- イギリス
(威海衛、九竜半島北部)
- 1899 フランス(広州湾)
- 日本 朝鮮、満州(台湾、福建省)
- アメリカ、(門戸開放、機会均等)
- cf. 鉄道敷設

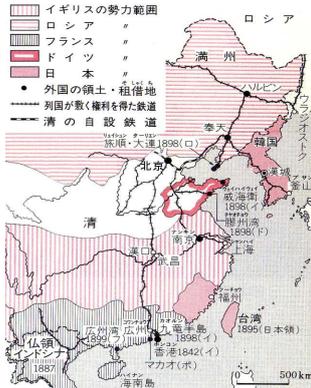
世界史と山東半島(3):ドイツ



1871年統一直前のドイツ

- 1871(明治4)年、統一。
- ビスマルク: 植民地拡大に消極的
- 1890年 ビスマルク退任
ヴィルヘルム二世: 世界政策
(タンザニア、ナミビア、カメルーン、トーゴ、南洋群島、ニューギニア)
- 人口が多く、生活環境のよい植民地を求める(移民出来る場所)
= 山東半島: 水深、炭田、塩田、

列強による中国分割(半植民地化)



中国史と山東半島

- 19世紀後半: 中華帝国としての存在を否定
(沿海州=ロシア、ビルマ=英国、ベトナム=仏国
台湾=日本)
- 国民意識の形成
 - 1888年、北洋艦隊(李鴻章、威海衛)
 - 1898年、康有為=変法運動(百日天下: 晩年青島居住)
 - 1900年、義和団事件(山東半島: 扶清滅洋)
 - 1911年、辛亥革命
 - 1912年、中華民国成立
 - 五、四運動
 - 内乱状態、北伐

日本と山東半島



- 日清戦争: 威海衛占領
- 1914年 第一次世界大戦(⇒ドイツ権益奪う)=日本人移民の急増
- 対華21カ条の要求
(第二の満州を考える)
- 山東問題⇒五、四運動
- 北伐: 山東出兵(1次~3次)
= 済南事件
- cf. 張作霖爆殺事件
- 日中戦争: 占領

青島(1) ドイツの模範的植民地



青島(2) 膠州湾(沈降地形)

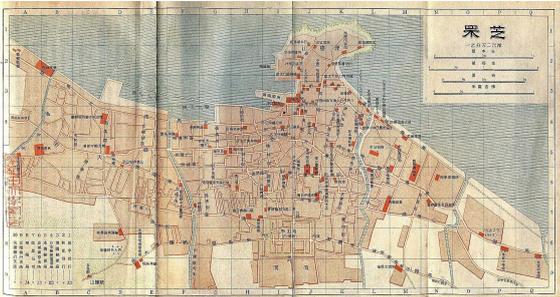


- 1898 租借地
(鉄道敷設権、鉱山探掘権、山東省の優越)
- cf. 租界と租借地
⇒ 三国干渉との関係で租借地にせざるを得なかった(事実上の植民地: ドイツ帝国保護領)
- 徹底的にドイツ風に町作り。
- 海軍直轄: 要塞化
cf. 大連、旅順
- 露骨な植民地化⇒ 義和団事件

青島(3) 日本、アメリカ

- 1914年 第1次世界大戦
日本参戦、山東半島占領
(日英同盟口実)
- 対華21カ条の要求
- 1919年 ベルサイユ条約
⇒ 五、四運動
山東問題
- 1921年、ドイツ、山東半島放棄
- 1922年、ワシントン軍縮会議
- 四カ国条約= 日英同盟廃棄
- 九カ国条約= 山東半島返還
BUT !
- すでに日本人3万人居留
日本紡績工場、製塩工場。
⇒ 日本勢力浸透の口実
- 日中戦争で再占領。
- 1945年 米国海軍基地(第7艦隊)
cf. 旅順港(ソ連)
- 1949年、米国撤退(沖縄へ)
人民解放軍の要塞

烟台(芝罘 1)。不思議な都市



烟台(芝罘 2)

- 遣唐使船の上陸地
- 1378年明、洪武帝が烽火台を作る。
- 1860年 フランスが単独占領(租界目的=失敗)
天津条約 登州(蓬萊城)を開港
- 1861年、開港場を芝罘に変更
- 1866年、フランス軍撤退。
↳ 共同租界を作ろうとするが出来ない
=各国の利害対立(1897年、1899年、1917年)
- 1910年、万国委員会

登州(蓬萊城)



- 遣唐使上陸点
 - 明の倭寇拠点
 - 天津条約
 - 廟島群島 =
渤海湾の入り口
- Cf. 遼東半島、山東半島はもともと一体:
渤海湾=沈降地形

威海(威海衛 1)



威海(2)

- 1398年 倭寇防衛のため建設。
- 1888年 中国北洋艦隊の発祥の地
- 日清戦争終焉の地
- 1898-1930年 イギリスが租借(劉公島のみ40年まで):ロシア監視
- イギリスは威海衛の植民地経営に熱心でない。=威海本土に租借地時代のものは殆ど存在しない。

済南(1)日中衝突の舞台



千佛山磨崖仏

済南(2)

- 中国で有名な古城
- 済河(小清河)の南
- 1920年代、鉄道を中心に日本の権益が残る。
- 日本人が多く住む。商業地
- 1926年 蒋介石北伐開始
(中国中央政界の混乱＝地方、自治的動きが出る:軍閥。同時に辺境の独立の動きも(モンゴル、チベット))。
- 田中義一内閣。積極外交。＝満州を實力で守る。
- そのために張作霖を支援。
- cf.1928年張作霖爆殺(関東軍)。

済南(3)山東出兵

- 日本人居留民保護が目的(北伐自体には不干渉)
- 第1次出兵(1927年5月) 蒋介石に対抗
(ここで北伐軍を食い止める目的も)
- 第2次出兵(1928年4月下旬) 5月済南蔣軍警備
5月3日 略奪あるいは口論
5月8日 済南事件
(日本人12名、中国人(外交)16名死亡)
- 第3次出兵(1928年5月) 済南での事件を受けて増派。
- 1929年 撤退。
- 日中戦争で再び占領

まとめ

- 古代から様々な交流のある所。
- 日本との関係もことさら深い場所。
- 文化的にも関係が深い。仏教、道教。
- 道教:中国の中でも特に濃厚な場所
- 近い過去があることも意識。